

極東國際軍事裁判所

アメリカ合衆國及び其ノ他諸國對荒木貞夫及び其ノ他ノ者

供述書

私原重太郎ハ次ノ如ク誓ツテ申シ上ゲマス。

私ハ現在今ノ吉田内閣ノ無任所大臣デアリマス。  
コノ以前ハ、日本ノ首相デアリマシタ。

私ハ濱口内閣ノ外相デシタ。濱口首相ハ陸海軍  
豫算ノ削減ヲ認可シ且推進シマシタ。只今申シ  
マシタ濱口首相ハ倫敦海軍條約ノ批准ヲ押シ進メ  
マシタ。トコロデ、軍部デハ前通濱口ガ軍令部長  
ノ統帥權ヲ犯シタト云フ感ヲ持テマシタノデ、其  
ノ軍部ノ強硬ヲ反對ヲ惹起シマシタ。

カノ濱口首相ガ佐郷屋ト云フ名前ノ思慮ナキ一  
青年ニ射タレマシタ時、私ハ東京府ノブラットホ  
ームニ居リマシタ。私ハ首相ト一篇ニ立ツテ居ラ  
ズ、少シ離レテ居リマシタ。私ハ手ヲカサウト思  
ツテ首相ノ所ヘ証ケ寄リマシタ、ソシテコノ若イ  
刺客ヲ逮捕スル本ガ眼ニ映リマシタ。其ノ後、  
コノ濱口首相ノ身体ガ、マセメデ、私ハ首相  
代理ヲサシ、ソシテ濱口首相ノ後ヲ継グニ就イ

RETURN TO ROOM 361

Exhibit 156

11522-1

テ綿密ナ調査ヲセシメマシタ。コノ調査ニ依リ、刺客ノ動機ハ濱口首相ノ海軍軍備政策ヘノ不滿デアル事ガ分リマシタ。

私ハ嘗分ノ閣首相代理ヲツトメマシタ、濱口首相ガソノ負傷カラ恢復シ政治ニ積極的参加ヲ望ムラレル様ニト希望シテ居マシタガ、カヘツテ病狀ハ益々悪クナリ濱口内閣辭職ハ必然トナツテ参リマシタ。

私ハ若槻社次郎男ニヨル後継内閣ノ外相ニナリマシタ。若槻内閣ノ外交政策ハ、國際問題ニ口スル限り、明カニ増和的協同的デアリマシタ。然シナガラ滿洲事變ノ勃發ニヨリ千九百三十一年（昭和六年）九月外交政策ニ非常ナ無理ガ加ヘラレマシタ。滿洲事變直前、外相トシテ關東軍ガ軍兵ノ集結ヲ行ヒ、或ル軍事目的ノ爲ニ彈藥積蓄ヲ持テ出シテ居ル旨ノ機密報告及情報ヲ受ケ、又或ル種ノ行動ガ軍閥ニヨツテ目論マレテ居ルトイフ事モ、ソノ様ナ報告カラ分リマシタ。若槻内閣及ビ外相トシテノ私自身モ滿洲事變直後軍ヲ抑制シ、之以上ノ領土擴張ヲヤラセヌ爲アラユル努力ヲ盡シマシタガ、不可能デシタ。

私ハ、外相トシテ「第原敬二外相」ト新聞紙上

11522-34

ニ又極端ナ國家主義進中、軍國主義者達ニヨツテ  
諸ク攻撃サレマシタ。前申シマシタ之等ノ進中ハ  
滿洲ニ於ケル「積極政策」ヲ要求シテキマシタ。  
コノ事ハ若槻内閣ニトリ大キナ傷ミデシタ。若槻  
内閣ガ、軍ノ抑制が出奈ズ又上進事件ト因縁シテ  
彼等ノ擴張ヲ壓ヘル事が出奈ナカツタ結果トシテ、  
内閣ハ余儀ナク辭職シマシタ。

岸 原 喜 重 郎

上記岸原喜重郎ハ一九四六年（昭和二十一年）六  
月十七日首相官邸ニテ本官ノ面前ニテ宣誓ノ上本  
供述書ニ署名セリ。

ヘリマン・ドーシー大尉

11533-14

附 明 諭

予大下爲（宣統三年三月三十一）へ書ニ  
左ノ如ク書ス。予へ日英兩國ニ通曉シ且本日  
前記英通譯ヲ上記符原草書ニ日本語ニテ讀シ解  
カセタリ。

之ヲ讀スニ當リ、予へ前記英通譯ノ内容ヲ英語ヨ  
リ日本語ニ忠實且正確ニ翻譯セリ。

右符原草書ニ對シ前記英通譯ノ内容が忠實ナル旨前記  
通譯ニ宣讀ノ上汝等知スル旨通ベタリ。右へ予  
ノ面前ニテ正式ニ宣讀シ且英通譯ニ予ノ面前ニテ  
宣讀ノ上知セリ。

此宣讀ヲ爲シ且前記英通譯ニ對シスルニ應イテノ凡  
テノ事ニハ日本語ヨリ英語ニ又英語ヨリ日本語ニ  
忠實且正確ニ翻譯セラレ、右英通譯ニヨリ完全理  
解且了知セラレタリ。

一九〇六年（昭和二十一年）六月十七日

日本ニ東京ニ於テ

大 下 勉